



創業80年以上の歴史を持つ自動車・産業用金型メーカーとして信頼を重ねる平岡工業。自社製品の次世代フェイスシールドが高く評価されています。その誕生に関わったCAD課の上奥さんにお話をうかがいました。

## 新しい挑戦ができる社内環境でモノづくり。設計・デザインと広報担当に取り組んでいます。

### 金型メーカーの パイオニア

広島県出身。広島市立大学芸術学部で日本画を学び卒業。文化財の修復会社などを経て平岡工業に入社。モノづくりの世界に個性と感性を反映させて活躍中。休日は映画や音楽などの芸術を楽しむ。

平岡工業株式会社  
製造部CAD課  
上奥 遥さん  
(うえおく・はるか)

「感性を活かしたモノづくり。細部までとことんこだわります」と上奥さん。

<http://www.hiraokaind.co.jp/>

次世代フェイスシールドHIRAX <https://hira-x.com/>

製造部CAD課に所属し、自動車のドア周りに使われるゴム製品などの金型設計をしています。近年ではマツダスタジアムのカープの歴代選手レリーフ、もみじまんじゅうの金型など、高い技術力が生む製品も手がけています。一つひとつの製品はとても複雑で繊細。お客様のニーズを把握、現場の声を聞き設計に活かします。社内は新しいことに積極的にチャレンジできる環境が整っています。社員は男性の割合が高く、年齢層は20代から70代まで幅広い職場。活発で自由な意見を交わせる雰囲気です。私は入社5年目。まだ経験は浅いですが、金型の製作過程の見直しを提案、作業やコストの削減を実現しました。ペタランの先輩から「もっとこうしたらいいよ」などのアドバイスもあり、年代や性別を超え

### 大学での 学びが今も

てコミュニケーションをとり、切磋琢磨しています。

幼い頃から絵や工作が大好き。広島市立大学の芸術学部で日本画を専攻しました。平岡工業の採用試験で工場見学をして、金属の切粉(加工時の削りかす)の美しさや現場スタッフの作業風景に圧倒され「かっこいい!おもしろそう!」という動機で入社しました。神は細部に宿るという言葉があります。設計やデザインをする過程では、物の形やフォルムをしっかりと見る力は大切。大学での学びも今の仕事に役立っています。「想像以上のものできて満足」「依頼してよかった」などの声があり、日々の励みになります。

### アンテナを張り 感性を磨く

新型コロナウイルスの感染予防に、地元企業のメガネ21とコラボレーションした「次世

代フェイスシールド」を開発しました。抗ウイルス・抗菌、髪型やメイクを崩さない自然な着け心地が好評です。世の中の変化をキャッチできるように、いつもアンテナを張り感性を磨いています。先日はガラス工房を訪ね、吹きガラス製作をしました。既存の枠にとられず、金属とガラスを組み合わせ、日常使いの食器の製作をしてみました。どんどん夢が膨らみます。そのためにも、社員が協力しあい、気持ちよく仕事ができる環境が大切。当たり前のことですが、挨拶をする・目を見て話す・ありがとうと伝える。これからも基本を忘れず、モノづくりの現場で頑張っていきたいです。



▲医療施設や放送番組などの現場で使われるフェイスシールド。「HIRAX」のブランドが光る専用ケースにも注目(別売り)。